



平成 26 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 杉 本 卓 士
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 26 年 3 月期通期（連結・個別）業績見通しに関するお知らせ

平成 26 年 3 月期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の連結および個別業績につきまして
は現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますと
ともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいた
します。

記

1. 平成 26 年 3 月期の業績見込みおよび業績との差異

(1) 連結

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前期実績 (平成 25 年 3 月期) (A)	5,082	215	341	163
当期実績見込み (平成 26 年 3 月期) (B)	4,975	553	620	445
増 減 額 (B - A)	△107	338	279	282
増 減 率 (%)	△2.1	156.7	81.9	172.3

(2) 個別

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前期実績 (平成 25 年 3 月期) (A)	417	39	24	718
当期実績見込み (平成 26 年 3 月期) (B)	637	272	247	243
増 減 額 (B - A)	220	233	223	△475
増 減 率 (%)	52.7	592.2	910.0	△66.1

2. 差異が生じた理由

(1) 連結業績見込み

当連結会計年度のわが国経済は、強力な金融緩和や2020年東京五輪開催決定から公共投資の増加が続き、住宅、自動車を中心に消費税率引き上げ前の需要増がみられました。また、企業業績とともに設備投資も持ち直し、雇用情勢も着実に改善するなど、回復基調が持続しました。

商品市況は、貴金属が米国株高を背景とした下落の後は横ばいで推移し、穀物は米国の干ばつ懸念での上昇と供給不安の後退による下落を経て、ウクライナ情勢の緊張を背景に反発しました。石油は中東情勢や新興国経済への不安から上下に振れたものの概ね横ばいで推移し、全国市場売買高は48,377千枚（前年同期比86.0%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は4,440百万円（前年同期比101.1%）となりましたが、売買損益につきましては、石油市場における売買損益が減少したこともあり、52百万円の利益（前年同期比24.6%）となりました。

この結果、営業収益は4,975百万円（前年同期比97.9%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては、事業再編による経費削減効果もあり、4,421百万円（前年同期比90.9%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は553百万円（前年同期比256.7%）、経常利益は620百万円（前年同期比181.9%）、当期純利益は445百万円（前年同期比272.3%）をそれぞれ計上する見込みであります。

(2) 個別業績見込み

個別業績につきましては、関係会社受取配当金219百万円（連結業績に与える影響はございません。）を計上したことなどにより、営業収益は637百万円（前年同期比152.7%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては365百万円（前年同期比96.5%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は272百万円（前年同期比692.2%）、経常利益は247百万円（前年同期比1,010.0%）、当期純利益は243百万円（前年同期比33.9%）をそれぞれ計上する見込みであります。

以 上